

2016年8月16日

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

URL <http://www.t-s-r.co.jp>

東京都千代田区岩本町 3-7-4 TSRビル

代表取締役社長 藤田正雄

TSR - Press Release

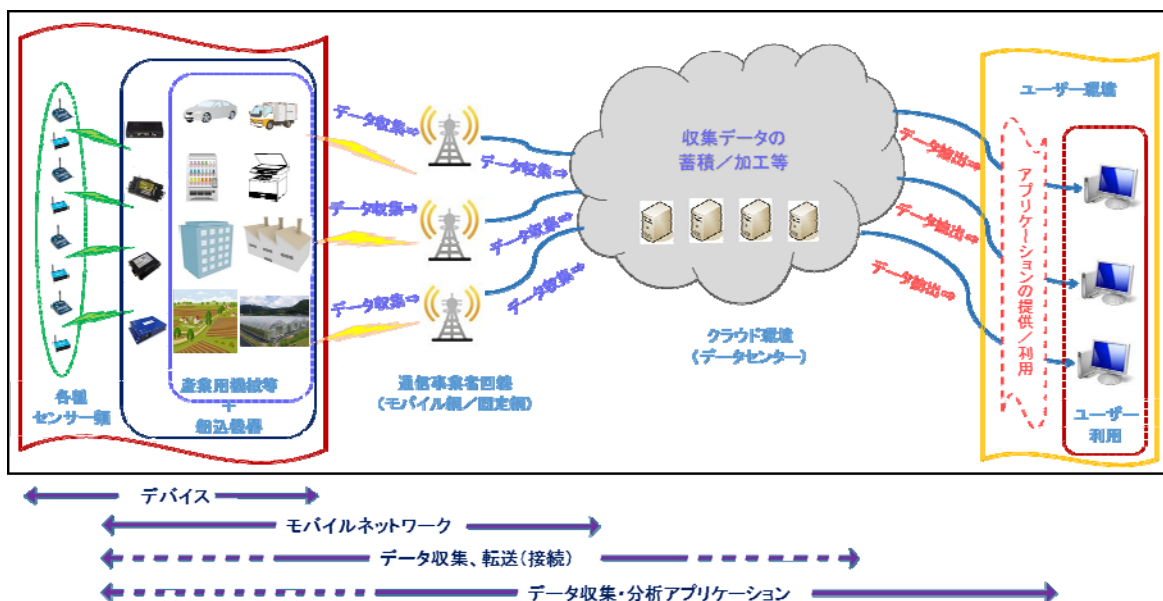
M2M/IoT サービスにおけるプラットフォーム利用が徐々に浸透

～2020年には売上規模・導入規模ともに2015年比で大幅成長の見通し～

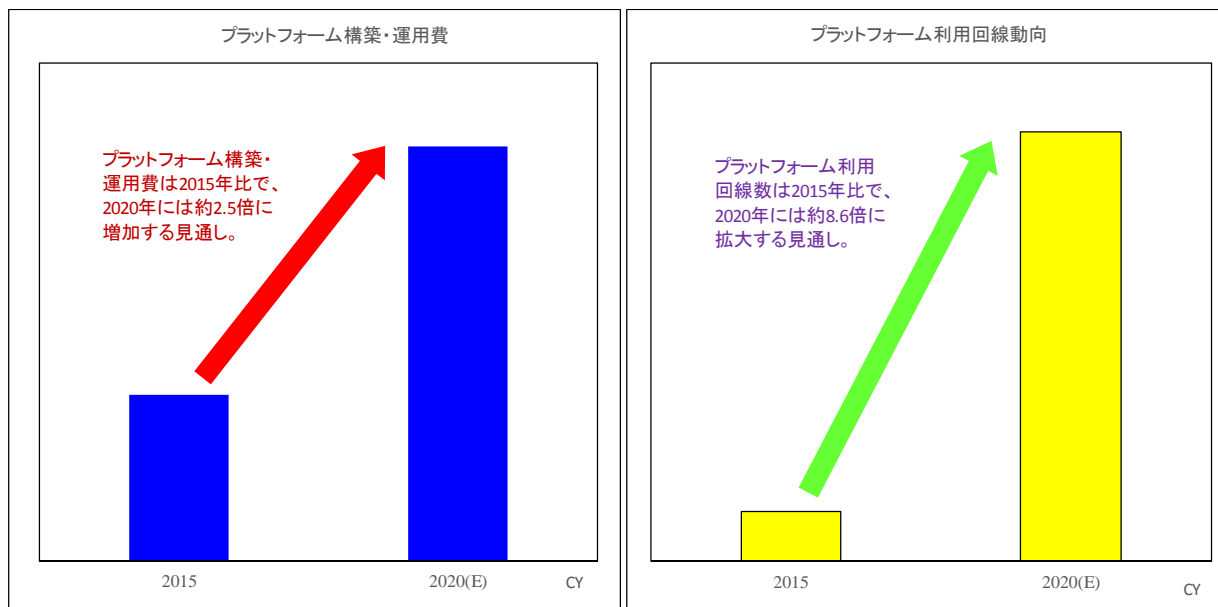
株式会社テクノ・システム・リサーチは、国内における携帯電話やPHS、WiMAXなどのモバイル回線を利用したM2M（Machine to Machine）市場に関する調査報告書『国内モバイルM2M/IoT市場動向調査』シリーズの第3弾となる「2016年M2M/IoTプラットフォーム市場動向調査」を8月初旬に発刊しました。

昨今、M2M/IoTシステムの導入にあたり、クラウドサービスをベースとしたプラットフォームと呼ばれる共通基盤を利用するケースが増え始めている。その最大の理由として、導入期間の短縮・導入費用の低減という効果があげられる。

本調査では、M2M/IoTプラットフォームを、機能やサービス内容をもとに次の4つに大別した。センサーやデバイス、機器等からデータを収集しアプリケーションの提供までを手掛ける「アプリケーション・プラットフォーム」、アプリケーション開発は行わずクラウドにデータを収集・格納しユーザーが活用できるようにデータを転送（接続）する「データ転送管理プラットフォーム」、デバイスの死活状態やソフトウェアのアップデート等を行なう「デバイス管理プラットフォーム」、モバイル回線の一元管理等を行なう「モバイル・ネットワーク・プラットフォーム」。



図②：各プラットフォームの主なサービス提供領域



かつての Machine to Machine=M2M（機器間通信）では、個別の仕様に応じてスクラッチでシステム開発するのが一般的であった。個別カスタマイズされることで必要十分なシステム構築がなされたが、その一方で時間と費用が相応にかかるのも一般的であった。しかしながら Internet of Things=IoT では、用途が機器だけに限らず多岐に亘るケースや、一度に大量のデータを収集するケースが一般的になってきた。こうした場合、その都度システム構築するのはユーザー側にもベンダー側にも時間と費用の無駄であるだけでなく、素早い事業の立ち上げにとっても障壁となる。プラットフォームを利用することで、実証実験レベルであれば数日程度でシステムの利用が可能となり、さらに状況に応じてすぐに取りやめることも可能になる。こうした時間と費用の両面における利便性をウリに、数年前から徐々にプラットフォームサービスは市場に浸透してきた。

こうした市場での広がりに合わせて、プラットフォームベンダー各社の事業展開も活発化している。3～4年前迄は、日系と海外ベンダーを合わせても数社程度しか事業展開をしていなかったが、2015年頃から数多くのベンダーが市場に本格参入してきた。今後1～2年の間は新規ベンダーの市場参入が活発化するものと予測される。

本調査では主要プラットフォームベンダー約30社に取材を行ない、市場全体の動向を分析するとともに各社サービスの特長や優位点について分析を行なった。

【資料紹介】

『2016年 M2M/IoT プラットフォーム市場動向調査』は、今年3月～4月にかけて発刊した『国内モバイル M2M/IoT 市場動向調査（2015年版）』の「第1部市場動向編」、「第2部データ通信量編」に続く第3部に相当する調査資料である。

従来、プラットフォーム資料は、主に第1部、第2部をご購入された企業様向けの追加資料として提供していたが、本年より個別での販売提供も積極的に行なっております。ただし、市場全体の中のプラットフォームの利用動向を把握するためには第1部とのセットがおすすめであり、特別セット価格も設定しております。

【プレスリリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社テクノ・システム・リサーチ
 第3グループ 戸波勝徳(tonami@t-s-r.co.jp)
 TEL : 03-3866-4505